

2021年1月17日(日)朝10:10
1月第3共同主日礼拝式説教

降誕節第4、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：小さい者を傷つけ、無視する人の罪 (18～)

聖書:マタイ 18章6～9節

<口語訳>

新約聖書28～29頁

マタイ 18章6～9節

<新共同訳>

新約聖書34～35頁

マタイ 18章6～9節

<新改訳第3版>

新約聖書35～ 頁

マタイ 18章6～9節

<塚本訳>

新約聖書122～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト**様の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ18:6～9節**の箇所から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒ 主は、**罪をいざなう者**の2回の「**禍**」(7)と2回の**神の永遠の命に入れられる者**の「**仕合せ**」を語っておられます。
- ⇒ 「**罪をいざなう**」は、「**罪を犯させる、躓かせる**」の意味があり、「**悪魔・悪霊**」が、その誘惑者であることが、暗黙のうちに示されています(7)。「それを来たらせる人」は、「**悪魔・悪霊**」の手先にさせられている者です。
- ⇒ 勿論、「**罪にいざなわれている者**」は、「**悪魔・悪霊**」に誘惑されている自覚はありません。自覚がある人は、「**神の聖霊**」を心の中にお迎えしている者です。

本論；

◇本日、**マタイ書18章6～9節**から主の**使信**に
思い・心νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ18章6～9節**；使徒**マタイ**は、
「**小さい者を傷つけ、無視する人の罪**(18～)」
との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠
されている「**神の 真理・真実**」を示して
います。

◇**マタイ18:6～9節**；塚本訳◆

◆子供のようになれ<1～9>

- 6 しかしわたしを信ずるこの小さな者を一人でも罪にいざなう者は、大きな挽臼を頸にかけて深い海に沈められる方が得である。
- 7 この世は罪のいざないがあるから禍だ、罪のいざないの来るのを避けることができないからである。しかしいざないを来させる人は禍だ。
- 8 (だから)もし手か足があなたを罪にいざなうなら、切り取って捨てよ。両手両足があって永遠の火の中に投げ込まれるよりも、片手片足で(永遠の)命に入る方が仕合わせである。
- 9 もしまた目があなたを罪にいざなうなら、くじり出して捨てよ。両目があって火の地獄に投げ

込まれるよりも、片目で(永遠の)命に入る方が仕合わせである。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ18:6～7節** ;「この世は罪のいざないがあるから禍だ、罪のいざないの来るのを避けることができないからである。しかしいざないを来させる人は禍だ(6)」、「しかしわたしを信ずるこの小さな者を一人でも罪にいざなう者は、大きな挽臼を頸にかけられて深い海に沈められる方が得である(7)」と、「**罪をいざなう者**」は、「大きな挽臼を頸にかけられて深い海に沈められる方が得である」と、厳しいことばを主は語っておられます。直接的には、**ユダヤ人指導者やヘロデら**を指しています。

⇒**SY師**によると、「**いざなう**」は、「スキャンダル」の意味があるということで、「わな」という意味もあり、教会においては、鳥をわなにかけるように、人間評価をする誘惑に陥れ、交わりを損ねてしまいます。

⇒「**罪をいざなう**」ことが、「**禍**」なのは、教会に分裂や教会から去らせる罪を犯させることになるからで、霊的には、教会の死です。

⇒ I コリント10:13【口語訳】

13 あなたがたの会った試錬で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に合わせることはないばかりか、試錬と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

◇**マタイ18:8～9節**；「(だから)もし手か足があなたを罪にいざなうなら、切り取って捨てよ。両手両足があって永遠の火の中に投げ込まれるよりも、片手片足で(永遠の)命に入る方が仕合わせである(8)」、「もしまた目があなたを罪にいざなうなら、くじり出して捨てよ。両目があって火の地獄に投げ込まれるよりも、片目で(永遠の)命に入る方が仕合わせである(9)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「(だから)もし手か足があなたを罪にいざなうなら、切り取って捨てよ。両手両足があって永遠の火の中に投げ込まれるよりも、片手片足で(永遠の)命に入る方が仕合わせである」は、実に厳しいととばをかけつつも、「いのちに入る方が仕合わせである」と、「祝福」しておられます。

⇒9節も、「もしまた目があなたを罪にいざなうなら、くじり出して捨てよ。両目があって火の地獄に投げ込まれるよりも、片目で(永遠の)命に入る方が仕合わせである」と、8節同様、厳しいことばと同時に、祝福をしておられます。

⇒マルコ9:35【口語訳】

35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は、**マタイ18:6～9節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。

⇒主は、**罪をいざなう者**の2回の「**禍**」(7)と2回の**神**の永遠の**命に入れられる者**の「**仕合せ**」を語っておられます。

⇒「**罪をいざなう**」は、「罪を犯させる、躓かせる」の意味があり、「**悪魔・悪霊**」が、その誘惑者であることが、暗黙のうちに示されています(7)。「それを来たらせる人」は、「**悪魔・悪霊**」の手先にさせられている者です。

⇒勿論、「**罪にいざなわれている者**」は、「**悪魔・悪霊**」に誘惑されている自覚はありません。自覚がある人は、「**神の聖霊**」を心の中にお迎えしている者です。

⇒ローマ12:16【口語訳】

16 互に思うことをひとつにし、高ぶった思いを
いだかず、かえって低い者たちと交わるが
よい。自分が知者だと思いあがっては
ならない。

⇒罪を赦されても、罪人に変わりありません。**神
の前**に愚かなことを繰り返します。それで駄目
な人間ではなく、最初から駄目な者を**神**が
生かして用いて下さるのです。

⇒常に、卑下せず、身を低くして、主のみことば
を聴き続けましょう。主が語って下さった
ことばを聴いて行う者を主は喜ばれます。